

設楽発掘通信

No.17
平成28年
1月号

平成二十七年度の 発掘調査が終了しました。

平成二十七年度の設楽ダム関連の遺跡発掘調査が、昨年十二月に終了しました。本調査として笹平遺跡、川向東貝津遺跡、大栗遺跡、滝瀬遺跡、大名倉丸山遺跡を調査しました。主な調査成果として、笹平遺跡では縄文時代中期から後期の集落、川向東貝津遺跡では旧石器時代・縄文時代草創期の石器と縄文時代中期から後期の集落、滝瀬遺跡では縄文時代早期・前期の集落などが確認されました。特に笹平遺跡では遺跡全体が調査され、縄文時代の様相が明らかとなりました。また、遺跡範囲確認調査として大名倉遺跡、大畑遺跡など十四遺跡の調査を行いました。その結果、東海地方で有名な大名倉遺跡の縄文時代の遺跡範囲が確認されました。調査に際しましては、多くの皆様のご協力とご支援をいただき、ありがとうございました。

これらの遺跡の調査成果に關しまして、川向東貝津遺跡（七月開催・参加八十名）笹平遺跡（七月開催・参加八十名、十一月開催・参加百十名）滝瀬遺跡（十一月四十名）で地元説明会を開催しました。特に笹平遺跡の二回目の説明会では、これまででない多数の方々に参加していただきました。

なお今年度の設楽ダム関連調査につきましては、地元説明会、設楽発掘通信で紹介してきたものを含めて、**成果報告会を下記のように三月五日（土）に開催することになりました。**多くの方のご参加をお願いいたします。

今年度の設楽発掘通信は本号が最終です。来年度も設楽ダム関連の調査が予定されていますので、設楽発掘通信は五月に再開する予定です。

（愛知県埋蔵文化財センター
酒井俊彦）

発掘調査成果報告会『新設楽発見伝』のご案内

日時：平成28年3月5日（土）午後1時30分～
会場：設楽町役場議場（田口字辻前14）
内容：平成27年度に行われた発掘調査の成果の報告と
出土遺物および写真の展示

参加費：無料

※2月に、詳細な内容をご案内いたします。
愛知県埋蔵文化財センターのホームページ
(<http://www.maibun.com>)、あるいは
電話（0567-67-4163）でご確認下さい。



写真2 笹平遺跡 貯蔵穴から出土した土器（縄文時代後期）



写真1 川向東貝津遺跡の埋甕（縄文時代中期）



写真3 滝瀬遺跡 集石炉跡（縄文時代早期～前期）

笹平遺跡の発掘調査

笹平遺跡の発掘調査がついに終了を迎えました。準備段階から数えますと延べ八ヶ月間におよぶ大規模な調査となりました。その間には、蒸し暑い夏の日、突然ゲリラ豪雨に見舞われ、そのまま作業中止となつてしまった日もありました。暖冬と言われていますが、調査終盤の数日間は霜が降りて地面がうっすらと白化粧した中で作業を開始した日もありました。そのような過酷な環境のもと、スタッフ一同一丸となり、また何よりも大きな掘削作業から細かい検出作業まで作業員さんたちの精力的な仕事ぶりに助けられ、調査を無事遂行することができたことをここに記しておきたいと思っています。

調査の成果ですが、とてもここでは紹介しきれないほど様々な遺構や遺物がたくさん見つかりました。その中で特筆すべきは、今回は遺跡の全域、つまり笹平の集落全体を発掘調査できたことで、一つの集落の景観をとらえることができたという点があげられます。これは愛知県内でも事例の少ない大変貴重な成果と言えるでしょう。



写真4 遺跡全景（上が北、一部埋め戻し済み）

遺跡の中央には、まるでムラのシンボルかのように自然の巨礫が存在しています。それを挟んだ東西両側から北側に、当時の人々の住居であったと考えられる竪穴建物跡が無数に見つかりました。確実に竪穴建物跡と判断できるもので三十棟を超え、その痕跡もしくは可能性のある竪穴状の遺構も数えればさらにその数は増えます。以前にも紹介しましたが、それが住居跡かどうかを判断する材料として、柱穴および炉跡の存在があげられます。特に炉跡には、方形等に石を組んで形成する石囲炉と呼ばれる形態が多く用いられ、調査区内を掘り下げていく過程で、突然組んだ石や焼けた土の広がりなどが目につき、そこが住居跡と分かることもしばしばありました。

写真6は、見つかった竪穴建物跡の中でも特に残存状況がよかったものです。平面形状は隅丸方形を呈し、一辺の長さは5m弱を測ります。壁際には溝状の落ち込みが巡り、もしかしたら壁板を立てていたのかもしれない。四隅には立派な柱穴が見つかりました。床面中央やや東寄りに石囲炉が見つかったこと、西側の壁際中央部分（写真6手前部分）がややくぼむことから、西側が入口であった可能性が高そうです。



写真5 遺跡中央～北側（南東より）



写真6 竪穴建物跡（西より）



写真7 貯蔵穴内土器出土状況（南西より）

中から出土した土器から、この建物は縄文時代中期後半（約五千年前）のものと判明しました。その他に見つかった建物跡は、出土する遺物から縄文時代後期（約四千年前）に属するものがほとんどのようです。詳細な時期については今後の検討課題になりますが、調査時における遺構の見つかり方として、多くの建物跡が少しずつ重なっていることを以前にも紹介しました。中には三重、四重に重なる建物もありました。これは同じ場所建て替えを繰り返しながら住み続けた結果、つまり「定住」の痕跡と考えることができます。建物以外にも、土坑が各竪穴建物跡に隣接して見つかりました。中には断面形状が口よりも底の方が広くなる袋状土坑と呼ばれるものもありました。袋状土坑は、一般的にドングリ等の堅果類を貯蔵するための貯蔵穴と考えられています。中から大きな土器（縄文時代後期）も見つかりました（写真7）。「貯蔵」という行為も、「定住」を考えるキーワードの一つになりそうです。

この笹平集落では、果たしてどれほどの人々が生活していたのでしょうか。土器から見えてくる遺跡の中心となる期間は千年を超えます。前号までに紹介してきました遺物の質と量を考えると、この笹平遺跡は当時の設楽町域における大きな集落の一つであったことは間違いなさそうです。では笹平が繰り返しの定住の地となったのはどうしてでしょう。興味と疑問は尽きません。

約半年間、設楽町域で作業を行うなかで、様々な野生動物を目にすることが一度や二度ではありませんでした。縄文時代にもきつと豊富な動植物が存在し、それらを食料資源とすることで、人々はこの地に「定住」することができたのでしょう。当時の人々の生活を想像するヒントは現在でも多く残されています。長いようであつという間の調査期間でしたが、発掘調査を通じてとても貴重な経験をさせていただきました。

（株式会社二友組 鷺坂有吾）



写真8 埋設土器出土



写真9 埋設土器口縁部

滝瀬遺跡の発掘調査

滝瀬遺跡は、先月号でお伝えしたように現地調査が完了しました。今回は、出土遺物の成果についてご報告します。土器を伴う集石遺構には、上面で土器の口縁部の存在が確認できていました。周りの石を外しながら掘削を進めたところ、写真8のように残りの部分が浅く、当初想定していた土器の底部は出土しませんでした。口縁部が上を向いていたとは考えにくく、下向きに埋まっていたと考えられます。この土器の時期ですが、縄文時代前期～中期前半（約六千年～五千年前）のものであると考えられます。写真9の奥の列に並んでいるのが土器の口縁部です。一番左にある破片以外は下の方から出土したものです。上面で確認できていた口縁部片は、一部が潰され、押し出されるように上に上がつてきた可能性が考えられます。約四ヶ月間、大栗遺跡・滝瀬遺跡と二つの遺跡を調査し、皆さんに調査成果をご報告してきましたが、今月が最後となりました。ありがとうございました。

（株式会社二友組 杉山敬亮）

平成二十七年年度の範囲確認調査成果

「設楽発掘通信」9号（昨年五月配布）でお知らせしましたように、今年度は、笹平遺跡など五遺跡を対象とした本調査と並行して、大名倉遺跡など十四遺跡の範囲確認調査も行われました。「設楽発掘通信」10号（昨年六月配布）でお話したように、この範囲確認調査の目的は、今後の本調査を行う上で重要な情報を得ることにあります。そのため、小さい面積の試し掘りを遺跡全体に行うことで、堆積状況や遺構および遺物の分布を把握していきます。今年度の調査は、五月から開始して十二月中旬には全ての調査を終了しました。

このような限られた面積での範囲確認調査ではありますが、特徴的な遺構が確認されることもあります。大名倉地区の大名倉遺跡は、寒狭川西岸に位置する段丘上の遺跡で、下谷遺跡などの名称で古くから知られた遺跡です。今年度は、段丘のやや高い区域の調査を行いました。地表下一メートルほどから、縄文時代中期後半（今から約五千年ほど前）の土器とともに黒曜石剥片・石器が出土し、さらに周囲にピットを伴う大きな落ち込みを確認しました。この落ち込みは試し掘りの坑より大きいため、性格を特定することはできませんでした



写真10 大名倉遺跡で見つかった遺構
（写真上半の黒ずんだ部分）



写真11 大名倉遺跡出土遺物

が、形状や堆積状況から、竪穴建物跡の可能性がります。川向地区の大名倉遺跡は、東西二ヶ所の丘陵上と間の谷地形が遺跡の範囲とされています。丘陵上からは、剥片や磨石・磨石敲石などがまとまって出土しました。丘陵間の谷間では、縄文土器・石器などの遺物のほか、水が湧き出る地点を確認しました。今後行われる本調査では湧き水を利用した遺構などが出てくるかも知れません。

（愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁）



写真12 大畑遺跡出土遺物
（左・中：剥片、右：磨石敲石の類）

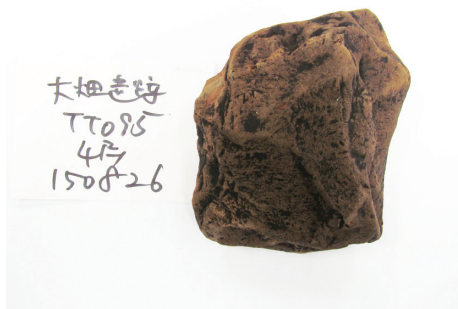


写真13 大畑遺跡出土石器
（大型の剥片石器か）

設楽発掘通信

No.17

平成28年1月号

編集・発行

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0001 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24

電話 (0567) 674161【管理課】 4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun



印刷・協力

株式会社二友組